

## 勿凝学問 235

銭湯権を危険にさらして  
新報道 2001 スタッフへの礼状

2009年6月4日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

2009年5月31日の新報道スタッフ2001が終わると、スタジオに、大熊由紀子さんと国際医療福祉大学大学院での大熊さんの学生数人が、ドドドッと入ってこられた。状況としては、どっきりカメラのような状況で、えっ、なんでここに大熊さんが？と、僕は驚いてしまった。

聞くとところによると大熊さんが責任者をしている国際医療福祉大学大学院の医療福祉ジャーナリズム分野の客員教授を新報道2001の黒岩祐治さんをお願いしているらしく、その縁で、大熊さんと院生さんが、朝の6時半から番組づくりの裏表を見学に来られていたらしいのである。大熊さんも、朝、スタジオに来て、その日のゲストが僕であることを知り、驚かれたらしい。

(大熊さんとの関係については、勿凝学問228 [えにしの会での事前講演録？——  
小さすぎる政府の医療政策と日本の医療保険](#)参照)

放送終了後、控え室に集まった番組スタッフと大熊さん、学生さんを相手に、僕は、社会保障と財政の講義を30分以上はして、解散となる。その後、僕は大阪に向かい、近畿医師会連合会で講演をして、夜、東京に戻る。

このあたりの基礎知識があれば、次のメールの内容を理解できるでしょう。

では——と言っても、送ったメールとまったく同じではない。

先日はお世話になりました。

偶然大熊さんともお目にかかり、ゆきさんとはなにやら不思議な縁を感じております(笑)。その夜は〇君ともご連絡されたそうで、彼は今年の社会保障国民会議時の私の担当者でした。[さて、社会保障国民会議のメンバーを辞めるとするか](#)で、辞めるよと伝えた相手は〇君でした。私の担当とは、なんとも可哀想な役回りだったと思います。。。

また大熊さんのおかげで、控え室でスタッフをはじめとしたみなさんとゆっくりと話す機会を持つことができ、社会保障、財政をとりまく全体像のさわりだけでも説明することができて助かりました。こういう議論で重要なことは、まず全体像の把

握です。私の社会保障の講義など、たとえば本年度に入って未だに社会保障の社の字も登場することなく、過去2百年以上の経済および経済学の歴史などを説明しながら、「予測」の意味を考えてもらったり、その時々を経済思想が生成・発展してきた理由を考えてもらったりしながら、所得再分配政策の全体像を見わたすことができる俯瞰的視野を育てることに務めています。そうした知的訓練を積まなければ、社会保障や財政を論じて、多くの論者のようにすぐに誤ってしまいます。なかなか大変な世界なんです。

ところで、再度の出演依頼、そのお気持ち、有り難く存じます。

しかしながら、先週、最初で最後のTV出演ということで引き受けさせていただいたわけでして、その気持ちに変わりはありません。

なぜ、先週引き受けたのか？と言いますと、第1に、出演依頼にいらした方達が（僕は、民主党の要請による年金の将来試算の意味を講義するために来てもらっただけで、実際1時間ほど講義をして、そこから出演依頼をされたわけ）、ほとんど座り込みでの説得という意気込みだったことですかね。私が「嫌だよ」と断ったあと、いくら待っても帰られなかったものですから（笑）。第2は、先週火曜日の年金部会の後、相も変わらずメディアの余りにもひどい報道が目につき、このままでは、また年金選挙という、過去と同じく不毛な選挙になるおそれがあると感じたからでした。

（ちなみに、彼らは、「[社会保障の充実は内需を拡大させる](#)」『週刊東洋経済』で私を知ったようです）

放送中に言いましたように、岡田さんが名をあげた2004年参院選の争点は、今考えれば、（私は当時から言っていました）1円の意味もないものでした。

#### [防貧機能を果たす、社会保険としての国民年金](#)参照

未納問題は、義務の不履行問題として告発する問題ではなく、権利の保障問題として取り扱うべきものです。2004年の政治家の未納三兄弟キャンペーンは、未納問題に対する誤解を増幅させ、この誤解を解くのに、われわれがどれほど苦勞したことでしょうか(T\_T)トホッ

次の総選挙が、またもやそうした不毛な選挙になるおそれがあったので、先週の年金破綻報道の真相、つまり民主党が凝りもせずに年金のネガティブキャンペーンを張り、政局作りに勤しんでいるだけということを語っておかなければならないという気持ちがあったからです。

2007年参院選の年金選挙については、『医療政策は選挙で変える』[増補版序文](#)参照

[この年金のなげ状態、時には何も語らないでおくことも研究者の重要な仕事なのである](#)に書いてますように、私は作用反作用における反作用の人間でして、なにかおかしな動きがない限り動きません。先週は、そうしたおかしな動きがあった週でした。

でも、研究者としては、やれることはやったと思っています。研究者は論証プロセスが命。そして、複数の価値を含む目的関数におけるバランスを視野に入れた政策解というものは、一言で表現できるはずもなし（笑）。残念ながら、大切なことは複雑なんですよ。「論文を読んで下さい」の解答は前日に考えており、前の日の夜には、該当する年金の論文をホームページにアップしていました。

といってもやれることをやり残していたとしても、次回出演はあり得ません。昔から、銭湯権（銭湯に行っても後ろ指を指されないでいられる権利）だけは維持して生きていきたいと申し出ておまして、先週は、危ういところでした（笑）。でも、昨日、銭湯に行っても、まだ、大丈夫でしたので、ここらあたりが潮時です。

と申しましても、以前にも話しましたように、企画へのアドバイスはいくらでも引き受けます。そこで、頂いたメールを参考に、いくつかコメントさせていただきます。

まず、先日、VTRにご登場されていた一橋の高山憲之先生との私の論争をご参照下さい。

2004年7月脱稿 [やれやれの年金バランスシート論](#)

これもどうぞ。

2006年6月脱稿「[公的年金における世代間格差をどう考えるか——世代間格差論議の学説史的考察](#)」

他にも、最近書いた、次もどうぞ。

2009年5月脱稿 [今の時代、年金モンロー主義者が日本を亡ぼすんだらうな——社会保障審議会年金部会から1日経っての感想](#)

高山先生と私のどちらが正しいことを言っているのかを、ご判断いただければと存じます。

年金は論理、ロジックの世界で、価値判断が入る余地は比較的小さいので、正しさと間違いがはっきりでできます。ですから、いろんな考え方の人がいるという世界

ではなく、誰が正しく誰が間違えているということがはっきりとする世界になります。

(医療は、そうはいかない)

そして、わたくしは、昔から、年金に関して、正しい論理の考え方と間違えた考え方との両論併記には批判的な考えを持っています。過去、両論併記の一方で論じたことは2回ありますが、それはものすごく近い知人から頼まれた2回だけです。

そういう意味で、みなさんが考えられている

「年金は破綻しない」という意見と「年金は破綻する」という主張などを軸に構成したいと考えており、

という企画そのものが間違えているように見えます。

この企画を本当に意味のある形でやるのならば、

2005年の両院合同会議ほどの時間を要する必要があります。

[http://www.shugiin.go.jp/itdb\\_kaigiroku.nsf/html/kaigiroku/0143\\_1.htm](http://www.shugiin.go.jp/itdb_kaigiroku.nsf/html/kaigiroku/0143_1.htm)

ここでは8回の会議が行われ、民主党の論はほとんど殺されています。

専門家の間では、当の昔に民主党の年金改革案は破綻しているのですが、彼らは対象（および票田）を素人に求め、現行制度のネガティブキャンペーンを張り、抜本改革と連呼する。このキャンペーンは、素人には大受けする。

先日の岡田さんも、視聴者に向かって「抜本改革が必要」と大声を出していましたが、素人にはあれだけで十分なんですよね。

岡田さんが「抜本改革」とか「100年安心の公約を撤回しろ」とか、大声で言っているのを見物しながら、民主党のトップが同党の兵隊と同じレベルであることを知ることができて、おもしろかったです（笑）。それにあまり制度のことを知らないで抜本改革、抜本改革と唱えるのは、社会保険労務士の試験に落ちて腹を立て、だから抜本改革だと言っているようなものなんですよね。

「公約を撤回しろ」と絶叫している岡田さんを眺めながら、2004年、岡田代表時の3%消費税引上げという公約が、いつのまにか取り下げられたことと比べて、どちらが重要だと思う？と聞いてみようかと考えていましたが、じっと我慢をしてました。。。

100年安心問題については、番組の中で2分ほど時間を費やしていましたが、あの2分ほど無意味な時間はありませんでした。より良い年金を考えるために2分を使うのならば、もっと違う話をしなければなりません。番組の中で言ったように、年金

を守る論陣を張るにしろ、攻撃する論陣を張るにしろ、100年安心という言葉を使う論者は、信頼に値しません。よりよい年金制度を設計していく上で、100年安心という言葉はまったく必要ないですから。100年安心という言葉が登場する文章が研究者のものでしたら、その研究者は2流どころか、3流、4流と考えていいです。その言葉で彼らは何を言いたいやら。学者が使う言葉では、絶対にない。

とにかく年金を考える際には、その問題が、年金の問題なのか、それとも年金が運営されている社会経済状況が問題なのかを峻別する必要、および胆力のある思考力が必要になります。年金なんてものは大海に浮かんだ小舟のようなもので、大海が荒れば舟が危なくなるのは当たり前。彼ら民主党がよく使う論法は、大海が荒れているから舟が沈没しそうなのに、舟が悪いと言って攻撃する論法です。その場合には、どういふ舟を準備しても舟は沈みます。今回でも、民主党の山井和則さん達のいう経済前提、社会前提を設ければ、狙いどおりに、国民に年金破綻を印象づけることはできますけど、そういう前提では、年金以前に国そのものがなくなってしまいます。今回の試算では、民主党の年金担当者たちが、ああいう社会経済前提の持つ意味を本当のところは理解できていなかったことが明らかになった——それ以上の意味はありません。

ちなみに、民主党がこれまで言い続けてきた年金改革案と先日岡田さんが言った年金改革案は違うものです。

岡田さんは、2階部分の積立方式を言っていますが、先日話しましたように、積立方式は、将来のいつか再び起こるであろう金融危機に耐えられるわけもなく、それに、今後GDP相当、もしくは超えるほどの積立金を抱える方向にこの国を導くなど、消費が不足している高度先進資本主義社会では、あり得ないはなしです。

[今の時代、年金モンロー主義者が日本を亡ぼすんだらうな——社会保障審議会年金部会から1日経っての感想](#)

大海に嵐がくれば今の舟は沈没しますが、彼らが作りたいらしい新しい舟は、民主党案であれ岡田さん案であれ、今の舟よりもはるかに沈みやすい。というよりも、彼らが舟だと素人に話しているものは、実は舟の体をなしておらず、航海までにもこぎつけられない。そういう話なんです。

ですから、両論併記とか、民主党の言う年金の破綻論を再度取り上げるなど、私は感心しません。彼らの思うつぼです。彼らに、ワンフレーズを連呼する機会を与えるだけです。

国民の幸せを考えるよりも、民主党に政権を獲らせたいということが本当の狙いでしたら納得できますけど、多くの人が、報道 2001 の前番組であった竹村健一さんの番組をあれは本当に良かったと懐かしがっている中で、報道の中立性を犠牲にし、そこまで新報道 2001 が視聴者を裏切る必要はないとも思っています。

それと、先日も言いましたように、「安心」の提供は経済政策です。民主党の常套手段である不安の煽り、そしてそれへのメディアの追随は、経済政策として最悪の政策です。このことは次の文章にも書いています。

#### 「年金問題 どんな政治家を選ぶのが問題だ

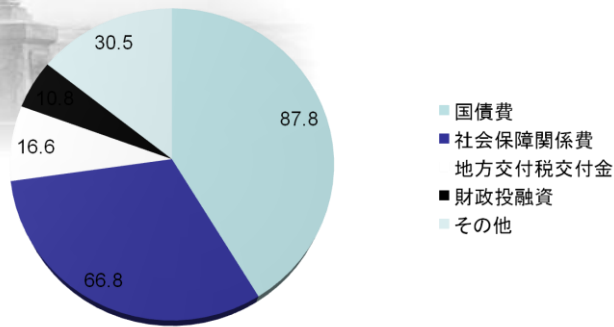
「2004 年 7 月の参議院選挙の際、年金を政争の具にするという禁断の果実に手を出した民主党は、大いに躍進した。その後 4 年間、あの時の成功体験が忘れられず、みずからまともな対案を出すこともなく、年金不信を煽るキャンペーンを張り、メディアはそれに乗り、国民は年金に不安を強く感じて老後不安を高め、消費を控えて内需を冷やしてきた。」

先日はあの後、作っていただいたフリップを抱えて大阪に行き、近畿医師会連合会で医療財源論、与野党の財源論、特に、民主党の財源論は詐欺以外のなにものでもないことを説明してきました。あの日は、財源論に話題が移った場合のことも考えて、10 枚ほどのフリップを作ってもらっていましたので、それを使った講演では、随分とうまく説明できました。ありがとうございました。

たとえば、民主党の言う「国の支出が 212 兆円だから、その 1 割くらい簡単に財源を確保できる」という論。削減が難しい国債費、社会保障関係費、地方交付税交付金、財政投融资を除けば、残りは 31 兆円しかない。この 31 兆円の中に、文科行政、農林水産行政、防衛費などなどすべてが入っているわけです。彼らの言う 1 割って、どういうことなのでしょうかね。彼らは、なかなか笑わせてくれます（笑）。

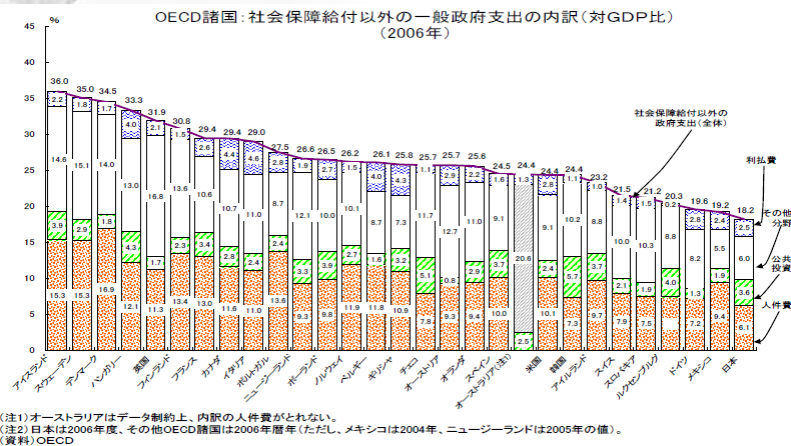
# 国の純支出212兆円の内訳

国の純支出(一般会計と特別会計を合わせたもの:兆円)



フリップにさせていただいた、社会保障給付以外の一般政府支出の図も、講演では役立ちました。日本人は、社会保障給付以外の一般政府支出——人件費、公共投資、その他、利払費——は、世界でもダントツに高いと思っているようなんですけど、実は、OECD 諸国ではビリなんですよね。

## 経済財政諮問会議配付資料 (2008年12月9日)



番組の中で、岡田さんと財源論を語る事ができたら、もっと面白かったと思うんですけどねえ(——社会保障で時延長をしてもらった上に、文句を言うなって?)。

最後に、私は2007年6月、つまり7月29日の参院選直前に『医療政策は選挙で変える』を出し、その本の帯には、

「9.11の郵政民営化選挙の際、よもや、与党に投票した医療関係者はいなかったでしょうね。あの時すでに、この国の医療政策がどの方向にむかっていくかということは分かっていたんですけどね」

とあります。要するに、与党に投票するなと説いた本なんですね。誰の味方でもなく、ものごとを政策毎に、是々非々で評価していく。今のように、この国にまともな政党がない状況下では、政策毎に是々非々で判断していくという方法しかないように思えます。

こうした姿勢を、パイレーツ・オブ・カリビアン ジャック・スパロウに譬えて話していますので、下記をご参照下さい。

[歳出削減はいつまでつづくのか？——この国には新自由主義とか市場原理主義の政治家などいない](#)、9頁　〔『医療政策は選挙で変える』所収〕

先日、かつて中央公論の編集長をつとめた粕谷一希氏の『[作家が死ぬと時代が変わる——戦後日本と雑誌ジャーナリズム](#)』を読んでいたら、「主体的浮動層」という言葉を見つけた。

私は「反体制」にも反対だが、「助言者」にも限度があると思っている。  
永井陽之助さんが言っていた「主体的浮動層」というポジションが一番いい。浮動票という言葉があるが、インテリの役割というのは主体的な浮動層だと永井（陽之助）さんは言っていた。あるときは、最大の政治権力に対する批判者となり、あるときは統治者と協力して一つの政策を実現する。こういう立場を「主体的浮動層」と名づけたのである。私はジャーナリズムも、本来は主体的浮動層でなければならないと思っている。

粕谷(2006), p. 271.

「主体的浮動層」——実にうまい表現である。同じ事を言うにも、わたくしがこれまで何度か使ってきたジャック・スパロウとは、品格が違いすぎる（涙）。

でも、ここはわたくし流に・・・。

映画『パイレーツ・オブ・カリビアン Part1』のなかの一コマより

出演

不真面目な海賊　　キャプテン　ジャック・スパロウ　（ジョニー・デップ）

ヒロイン　　エリザベス・スワン　　（キーラ・ナイトレイ）



ヒーロー	ウィル・ターナー	(オーランド・ブルーム)
	エリザベス	「ジャックはどっちについてるの？」
	ウィル	「今は、こっちの味方みたいだ」

2004 年年金改革では与党を大いに支持するも、現政権の保育・教育、介護・医療政策や就業形態選択の自由の保障については『[医療年金問題の考え方——再分配政策の政治経済学Ⅲ](#)』のなかで厳しく論難してきた。さてさて、これから誰の味方をし、どこの論敵となって、＜世論の陣取り合戦＞という遊びを興じるとするか。

それでは皆様のご健勝を、心よりお祈りしております。

また、なにかありましたら、ご連絡下さい。出演依頼以外でしたら、何時間でも相談に乗ります。

ではでは。

-----

追記

放送後、励ましのメールを送ってくださった方々、ありがとうございました。

心よりお礼を申し上げます。

### 一番最初に届きました賞

老齢基礎年金受給中の者です。

初めまして、突然のメール失礼いたします。

僕は還暦を過ぎた団塊世代です。

今朝のフジテレビ「報道2001」を拝見しました。

日頃より、新聞報道のでたらめ、杜撰さに辟易していたものですから、先生の今朝のご発言で胸のつかえがおりました。先行きの短い老人がその将来不安から莫大な預貯金を持っているという異常な社会となっている日本に疑問を感じていました。仰るとおり、将来不安が無くなり、そのお金が世の中に環流ししたら、健全な社会に向かうようになると思います。

販売部数、視聴率ばかり追う現在のマスコミは日本の将来を蝕んでいます。

恥ずかしながら、先生のご意見の一端を初めて拝聴しました。

勉強になりました。

早速、先生の HP、著作類を読ませていただいて、勉強したいと思います。

Wikipediaによりますと、TV等を避けていらっしゃるようですが、これからはどんどんマスコミにご自身をさらされて、何も分からぬ国民に正確な情報を発していただいて啓蒙をお願いいたします。

もちろん、TVなどマスコミが都合が悪いと思ったらお声はかかりますまいが、著作を通しての啓蒙もありますので、一般にわかりやすく文庫本や新書本の形でどんと論文を発表してください。

期待しております。

今朝、TVを見て、胸のつかえがおりましたので、失礼を顧みずメールを送らせていただきました。

益々のご活躍をお祈りしております。

頑張ってください。

### 心温まる励ましの言葉賞

私は、54歳、長野県に本社がある会社役員です。

この様なメールを今まで差し上げた事は無いのですが、本日は貴殿の思いに感銘し、敢えて一筆啓上申し上げます。

昨今のテレビ討論番組は、本日の黒岩氏の様に課題の持つ立体性、複雑性を無視し、それを述べるゲストに対しても「一言で言え!」、「どっちなのだ!」、「それでは視聴者は解らない!」等々の暴言をまくし立てるキャスターと、ポスターよりも効果的とばかりに出演することが最大の目的で、気の利いたワンフレーズでも言えたものなら時代の寵児とばかりにのぼせあがる軽い軽い政治家及び解ってもいないのに訳知り顔で頓珍漢な突っ込みを入れる評論家、又は「一言で言え!」の恫喝にいと簡単に学者としての矜持を捨てる大学教授が織り成す製作費が安い茶番劇と相場は決まっております。

本日もその役回りに則って茶番劇は進んで行きましたが、やっと振られた発言機会、メディア、政治家そして視聴者に阿ようとしない貴殿の態度、私にはとても新鮮でした。

何時からテレビ局は、アナウンサーはそんなに偉くなったのでしょうか? 何時から勝手に視聴者の知的レベルを推量し、国民を代表したのでしょうか? 私はメディアの役割を否定するものではありません。寧ろ国民の幸福という崇高な理念に資するための善良で健全な深い洞察力と説得力として是非、機能してほしいと願っている者です。

本日、貴殿は「一言で言えないからアップした論文を読み」とおっしゃった。テレビ局側は「ネットを利用できない人もいるし、全ての人に解らないのは情報差別だ! 何よりも番組にならない。」と反論するかもしれませんが、迎合する必要はありません。その番組に軽薄な結論を与えるより、心ある者がじっくりと事象を見つめる機会を提供する方がよほど気が利いていると思います。

貴殿のご健勝と一層のご活躍をご祈念申し上げ、勝手に申し上げ、勝手に筆を置かせて頂きます。

### なかなか通ですnee賞

今朝は、先生の話で持ち切りでした。

- ・ まずはメディアをぶった切る
- ・ 次に民主党をぶった切る、
- ・ 返す刀で公明党もぶった切る、
- ・ 最後は財界・自民党もぶった切る、

まさに快刀乱麻のご活躍とはこのことかと思われました。報道 2001 も、前番組だった「竹村健一・世相を切る」以後、番組レベルが落ちています（竹村さんの若い頃のお話は本当に面白かった）から、久しぶりにこれだけ全てをぶった切りするコメンテーターが現れたと思う視聴者も相当いると思いますよ。うちの父母も、「この人が言うてる話の方が正しいんっちゃうのん？」と申しておりました。